

苫小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苫小牧市教育委員会 第 11 回 定例委員会
日 時	平成25年8月27日 自 15時 至 16時5分
場 所	苫小牧市美術博物館研修室
出席委員	委員 長 上 原 毅 委員 佐 藤 郁 子 委員 佐 藤 守 委員 植 木 忠 夫 委員 和 野 幸 夫
欠 席 委 員	
会議録署名委員	委 員 植 木 忠 夫
会議録作成職員	総務企画課総務係主事 田 中 亮 太
事務局職員	学 校 教 育 部 長 澤 口 良 彦 ス ポ ー ツ 生 涯 学 習 部 長 生 水 賢 一 学 校 教 育 部 次 長 戸 村 真 規 ス ポ ー ツ 生 涯 学 習 部 次 長 木 戸 克 史 指 導 室 長 中 川 恵 介 学 校 教 育 課 学 務 係 長 高 坂 博 幸 指 導 主 事 遠 藤 佳 伸 総 務 企 画 課 長 斉 藤 拓 也 総 務 企 画 課 総 務 係 長 下 濱 辰 哉 総 務 企 画 課 総 務 係 主 事 田 中 亮 太
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（上原委員長） … 15時
2	会議録署名委員の指名（植木忠夫委員）
3	会議録の承認
	第9回の臨時教育委員会（平成25年7月12日開催）、それから第10回の定例教育委員会（平成25年7月26日開催）、この会議録の内容について何か御質疑等ございますか。
	（一同「なし。」の声）
	－会議録どおり承認－
4	教育長の報告
	お昼からの拓進小学校訪問、ありがとうございました。新しい学校でしたので、学校へ行くといつも思うのですけれど、教育環境格差が広がって行って、別の意味では大変辛い思いをして観て参りました。前月の7月26日の定例教育委員会以降の事業について報告をさせていただきます。27日と28日に文化公園アートフェスティバルが開催されました。あいにくの雨模様の天気でありましたけれど、室内で開催をする等色々工夫をして多くの事業の開催をし、そして、多くの市民に参加をいただいております。また、27日に苫小牧市美術博物館の会館記念式典と出光美術館収蔵日本陶磁名品選が開催をされまして、8月25日で終了いたしました。最終の入場者数

は5,045人となっており、最近では大変多くの入場をいただいた事業となっております。7月29日には東胆振学区の公立高等学校配置計画検討委員会が開催をされております。平成28年に白老東高等学校の1学級減についての説明がなされました。中学校卒業生の進学先の問題だけではなく、地域の活性化や私立の高等学校の学校経営にも関わる問題でもあります。また、先日は地域説明会も開催をしたようでありまして、地域理解を得ることも難しく、ベストな解決策の見えない課題であると考えております。8月2日には入間市中学生研修団の11校23名が、本市の中学生20名とそれぞれのまちの様子や学校の様子を紹介し、交流を図っております。また、6日には日光市から青少年の船により39名が本市を訪れると、市長表敬訪問の後、つみきの会のお手伝いをいただき、ウトナイ湖鳥獣保護センターに向かい、洞爺湖、倶知安、札幌市等の見学を行う行程になっておりました。前後いたしますけれども、第8回の高校選抜アイスホッケー大会が開催をされ、全国から28チーム731名が参加をし、苫小牧駒澤高校が2年ぶりの優勝を果たしております。8月19日には、北海道いじめ防止条例地域説明会が開催をされ、条例案の更新と今後の日程についての説明があり、私からは、関連した取組として苫小牧市いじめ問題子どもサミットについて概要の説明を行っております。また、ALTのアーサーとマックスが退任をし、9月に改めて御紹介をしたいと考えておりますが、新たにジャスティンチューとアレックスランが着任をしております。次に港まつりでありますけれども、委員長や佐藤郁子委員におかれましては大変暑い中、市民踊りの審査員でお世話になり、ありがとうございました。また、委員長におかれましては、次の日も含め2日間のお願いをいたしました。大変ありがとうございました。学校関係では、今年から期限付きの教員の研修会を開催をしております。庶務の関係と学級経営等についてみっちり研修を行っております。また、夏休み期間中の児童生徒の事故でありますけれども、本市では幸いにして大きな事故の報告はされておられません。砂川市では8月4日に中学3年生が溺れて亡くなっております。先日の校長会でも改めて注意喚起をお願いをしたところでございます。次に、全国学習学力状況調査の結果が公表をされ、後程説明を

いたしますが、現在学力向上推進委員会の指導資料作成部会で資料作成に当たっており、調査結果を活用して学力向上に何とか結び付けたいと考えております。最後に、9月1日付けで教頭退職に伴う人事異動を行う予定であります。議案第4号で説明をいたしますが、3つの学校内での異動に収めて発令をしたいと考えております。

(上原委員長) ありがとうございます。何か御質問等ございますか。

(一同「なし。」の声)

5 議 案

第1号 平成26年度 教科用図書採択について

(学務係長) —「平成23～平成26年度使用小学校用教科書一覧」、「平成24～27年度使用中学校用教科書一覧」等に基づき説明—

(上原委員長) 質疑に付します。何かございますか。

(一同「なし。」の声)

—原案どおり承認—

第2号 中学校における特別支援学級の配置について

(学務係長) —「中学校における特別支援学級の配置について」に基づき説明—

(上原委員長) 質疑に付します。

<p>(佐藤守委員) まず基本的なこと、通級指導教室と特別支援学級の違いをもう1度確認したい。それと、全中学校だとかなりの予算的なものが掛かるのではないかと思います。その辺のことと、それから、校内委員会で実態調査を行うということなのですが、今小学校でも特別支援教室とか通級に行っている子ども達が多分そのまま中学校に上がってくると思うのですが、小学校から中学校に上がる段階でのその実態調査を再度行うのかどうか、それから、その場合に学校の先生だけではなくて、多分お医者さんとかが入っているのではないかと思います。各学校でこの実態調査を行うという場合に、かなり負担になることが予想されるが、どのように考えられているのかを確認したいと思います。それと、中学校の場合、専門教諭の方がまだ当然足りない段階ではないかと思うのですが、今後そういった先生方をどのくらい増やしていく予定なのか。それから、小学校と中学校と色々連携を取らなければならないと思うのですが、各学校の委員会と連携、地域連携というのですかね、小中学校の連携というか、そういった形の委員会なども段階的に考えられているのかをちょっとお聞きしたいと思います。</p>
<p>(指導室長) 2つ目の御質問がありました、おおむね5年で市内の中学校全部に特別支援学級を配置する場合の予算面ですけれども、空き教室が、生徒の減少により大分生まれてきておりますので、備品等はできるだけ適切に配備したいと思っておりますけれども、教室については、簡単に区切りを作るですとか、比較的予算を掛けないこと、これまで実はかなりのお金を掛けて特別支援学級を設置してきた訳ですが、施設の実態としては、かなりお金を掛けない中で進めることが可能だという判断もございますので、そういった形でできるだけ予算を削減しながら、設置を進めて参りたいというふうに考えております。それから、4つ目の教師の専門性という部分での御質問でしたが、現在人事異動の中では、他市からの本市への転入という人事いわゆる広域人事が順次進められておりますけれども、学校によりましては、長期休暇中を使って教職員に特別支援の免許を取らせに行くだとか、そういったことも現実としては進んでいる部分もございます。いずれにしても、教師の専門性という部分で非常に問</p>

<p>われる部分もありますので、人事異動の際には我々の方としましても最大限配慮しながら進めて参りたいという考えでございます</p>
<p>(遠藤(佳)指導主事) まず1番目の質問でございますが、特別支援学級と通級指導教室の違いについてということなのですが、特別支援学級につきましては、特別の教育課程が必要であるというお子さんが通う学級でありまして、それに対して通級指導教室というのは、一部特別な支援が必要であるということで、通常学級で勉強し、一部課題があってその点につきまして通級指導教室で一部だけ指導を行うというのが通級指導教室でございます。3点目の小中の接続に関して実態調査をするのかという点でございますが、こちらにつきましては小学校から中学校に変わる段階において、就学指導委員会での就学指導委員がそれぞれの学校におりまして、調査をいたしまして、適切な教育課程はどこであるかということ而就学指導委員会が判断し、そして、中学校へ接続していくというふうになっております。5点目の小中の連携ということでございますが、苫小牧市においてはエリアプロジェクト協議会というものがございまして、そこで小中学校の連携ということで、地域の小中学校の先生が集まってそれぞれの学校の児童生徒について話し合うという場を設けてございます。</p>
<p>(佐藤守委員) アの中に「保護者の意向を確認する」ということがあるのですがけれども、小学校でも中学校でも、委員会ではそういう所に進んだ方が子どものためにはいいよという判断をするということで、進んでいくと思うのですが、保護者が「そんなことはない。」と反対したような場合に、当然そういう支援を受けられない子どもが出てくると思うのですが、そういう子どもと承諾した親がいる子どもが同じような学校に混在するような場合というのは考えられると思うのですが、そのような場合に学校としてどのような対処をしていくのかなというのがちょっと心配なので、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。</p>
<p>(指導室長) まず就学指導委員会の方で教育措置について答申をいたしますけれども、あくまで強制力はなく保護者の御理解をいただきながら、措置を進めていくというものでございます。したがって、中には、例えば特別支援学級が適当ですと</p>

いう答申に対して、通常学級での生活指導を望む保護者もいらっしゃいます。そういう方々につきましては、学校としては、本市の特別支援教育支援員を各学校に配置していますので、通常学級で学習支援に当たるとともにエリアプロジェクト協議会ですとか校内委員会等で結果を見守りながら、粘り強く保護者の方に相談という形で進めていっているところでございます。いずれにしましても、小学校段階から学校と保護者の信頼関係というのが大前提になってまいりますので、そういったことを力点を置きながら進めていくということでございます。以上です。

(上原委員長) 他にございますか。ございませんか。それでは他に質疑がないようですので原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり承認—

第3号 教育費補正予算について

(学校教育部長・スポーツ生涯学習部長) —「補正予算資料」を基に説明—

(上原委員長) 何か御質問等ございますか。

(佐藤守委員) 図書整備費なのですが、小学校と中学校にかなり金額に差があるのはどうしてかというのと、それから8,000千円と3,000千円ですので、各学校に均等にいくのかそれとも何か優先順位があるのか教えていただきたい。それと、学校管理費の弥生中学校の廃棄物処理の関係なのですが、あそこを何度か通るのでございますけれども、バックネットの小屋が荒らされてたり、結構何かいたずらされている部分があったり、あそこのグラウンドが当然使われていませんで、草がすごい状況になっているのですが、その辺の処理はどう考えられているのか、2点を聞き

たいと思います。

(学校教育課学務係長) 図書費の小中の配分につきましては、優先順位としまして蔵書率を基に寄附の配分と、また、交付金の配分をする予定でございます。今年度、拓進小学校を新規に開校しておりますので、約5,000千円規模だったと思いますが、小学校につきましてはほとんど拓進小学校に配当する予定でございます。中学校につきましても蔵書率の低い学校を優先しまして配当する予定でございます。

(学校教育部次長) 弥生中学校の施設管理という面でございますけれども、閉校になった段階でまず車が入れるような所については入れないようにしました。施錠してございます。それでもどうしても、いたづらをされるガラスを割られるというような事象が起きておりますけれども、私どもの方といたしましては、施設管理という面です、見回りをしながら壊されているところについては直すと、最低限の直し方になりますけれども、そのような対応をさせていただいております。また、バックネットの裏の管理ですが、芝が伸びているという状況がございます。芝につきましては、丁度コンビニの方がございますので、そちらの方からも苦情が入ったというようなことがございまして、法面の芝を刈らせていただいたというような実態でございますけれども、グラウンドの中までということは中々今現在全部芝が刈るということは難しい状況になってございます。近々消防の訓練がなされるというようなところで、消防の方とはそれに合わせて全体を1度刈って、それで訓練を実施するというような打合せもできておりますので、10月に入っての訓練というふうになってございますけれども、その前には会場の設営をしていくということでございますので、その時期に合わせて芝を刈っていくというようなことになってございますので、それのところについては私どもの方としましても何とかガラスを割られるとかですね、そういう実態がございまして、勘弁させていただいているというところでございますので、御理解いただければと思います。

(佐藤守委員) 草だけですね、防犯上ですね、丈結構伸びているんですよ。子どもがあの中に入ってしまうと分からないとか、ちょっと危険性を感じたものですから、

なるべくなら、草を全部刈らないにしても、子どもが入っても見えるくらいの背丈くらいまで刈っていただきたいなと思っております。

(上原委員長) 他にございますか。それでは質疑がないようですので、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり承認—

第4号 教職員の人事について

第5号 教職員の処分について (報告)

第6号 教育委員会職員の処分について (答申)

(上原委員長) 次に、議案第4号、第5号及び第6号は、人事案件等でございますので、会議規則第21条の規定によりまして秘密会としたいと思いますがよろしいでしょうか。

(一同「はい。」の声)

—原案どおり承認—

6 協 議

な し 。

7 そ の 他
(1) 平成25年度教育委員会点検・評価報告書について
(学校教育部次長) —「平成25年度(平成24年度対象)教育委員会点検・評価報告書(案) 3. 点検・評価に関する意見等」の説明—
(上原委員長) 何か御質問等ございますか。
(佐藤郁子委員) 23ページと24ページが深く関係するのですが、(2)の点検・評価のところについてなのですが、一方は成果Cで方向性が継続はあり得ないという意見と、成果Cで方向性は改善であり、正しい評価だと思いますと分かれています。2点の取り方の書き方にもよるとは思うのですが、一方が成果Cで方向性が継続はあり得ないということと、それからもう一方が正しいという評価なのですが、これは21ページのCが、12ページの体力向上のところに書かれている、これに対しての説明というのはなさっているのでしょうか。
(学校教育部次長) 今言われているとおり、スポーツ課のところの21ページアイスホッケーの殿堂のところ、これがCだということで成果は評価をしているのだけれども、Cであれば改善というのは、Bになってなければならないのではないかとということになるのですが、それがそのまま継続というようなことになっているので、それについていかがなのかというような御意見があったということですよね。方向についてはそういうことになるのですが、逆にCであっても改善ということであればそれは適切な判断だということと、他に委員が言われた12ページでCであるのだけれども、これは継続はしているのだけれども、改善する中でどう考えるというふうなことでございますので、そういった意味では適切な評価ではないかというふうに思います。
(佐藤郁子委員) では、あり得ないということとそれで正しいということで、点検は

項目によって考え方が違うという解釈でよろしいですか。
(学校教育部次長)　そうです。
(上原委員長)　他にございますか。よろしいですか。それでは他に質問等ないようですので質疑を終結いたします。その他何かございますでしょうか。
(佐藤守委員)　その他でいいですか。とまこまいキッズタウンという新しい試みを今度行うということで出たのですが、その中で若干お聞きしたかったのですが、見ると3・4年生の事業ということで、通常であったら5・6年生のような気がするのですが、どうして3・4年生なのか。それから、今回500人募集している中で、多分8月31日までだったのが集まらないということで9月9日まで延長したということなのですが、その辺何か周知の方法とか何か足りなかったのか、どのくらい今まで集まったのかその辺ちょっとお聞きしたい。中々いい試みだと思っております。
(スポーツ生涯学習部長)　まず3・4年生の理由でございますが、先進都市で実施している事例に習いまして3・4年生でまず実施することになりました。苫小牧で初めて実施するものですから、1・2年生ですとあまりにもちょっと低学年過ぎて、これから社会に出て行く教育といえますか、そういった経験を積むという意味ではちょっとまだ早過ぎると、5・6年生に関しましては、その理由はまだ詳しくは聞いていないのですが、先例で行っている他市の実施状況を見まして、同じ年代の子どもを選ばせていただいたということでございます。延長募集についてでございますが、委員のおっしゃるとおり、宣伝不足も若干ございまして、今回期間を延長して各学校に改めてまた働きかけを行いながら募集して参りたい。今現在大体まだ200名程度と聞いております。これから9月に入りましても、まだ期間延長して、募集して参りたいと考えてございますのでよろしくお願い申し上げます。

8 委員会閉会の宣言（上原委員長） … 16時5分

以上のとおり会議の概要を記録し、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

委 員 長

会議録署名委員

会議録作成職員